

# 令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市内立八幡屋小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

|         |             |
|---------|-------------|
| 区 名     | 港区          |
| 学 校 名   | 大阪市内立八幡屋小学校 |
| 学 校 長 名 | 井原高志        |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

### (2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市内立八幡屋小学校では、第6学年 23名

## 令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市内立八幡屋小学校の結果概要

令和8年度「全国学力・学習状況調査」の国語科・は全国・算数科ともに全国・大阪市平均正答率に達することはできなかった。国語科では、すべての領域で全国・大阪市平均正答率に達することができなかった。算数科では、「C 測定」の領域で全国・大阪市平均正答率を超えることができた。その他の領域では、全国・大阪市平均正答率に達することはできなかった。平均無答率については、国語科・算数科ともに全国・大阪市平均無答率を下回っている。児童が全国学力・学習状況調査について、最後まであきらめずに取り組んでいたことが伺える。

### 分析から見えてきた成果・課題

#### 教科に関する調査より

【国語】本校では、朝の学習時間帯に全校一斉に読解力を高めるための「文章問題ドリル」に取り組んでいる。回数を重ねるごとに、文章を正しく読み取る力が育ってきている。また、継続的に日記指導や1分間スピーチに取り組み、短い文章で適切に表現する練習を重ねてきた。今年度の全国学力・学習状況調査では残念ながらその成果を発揮することはできなかった。領域では、「(1)言葉の特徴や使い方に関する項目」「A 話すこと・聞くこと」で大阪市の平均正答率には近づけている。今後も継続した指導は必要である。

【算数】本校は算数科の研究に取り組んでいる。少人数で学ぶ機会を多く持ち、自分なりの考えを持ち、友だちと意見を交流する授業を展開している。誤答が多かった問題については繰り返し学ぶ場を持ち、学習内容の定着を図っている。全校児童が同一の文章問題に毎週取り組む「算数アタック」を実施している。基礎基本の学力の定着を目指し「放課後指導」にも取り組んでいる。毎年その成果は表れているが、今年度の全国学力・学習状況調査では全国・大阪市の平均正答率に達することはできなかった。

#### 質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」の項目の肯定的な回答は95.6%で自己肯定感が高い。その背景では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目で肯定的な回答が100.0%であったり、「友達関係に満足していますか」の項目で肯定的な回答が95.7%であったりすることから、日々、安心した環境で学校生活が送れていることが要因としては大きい。そんな中で、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目の肯定的な回答が95.6%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目の肯定的な回答が100.0%と、自己肯定感・自己有用感がしっかり育っている。

### 今後の取組（アクションプラン）

国語科では、継続して「読解力」を高めるとともに、「書く力」も育てる必要がある。「読解力」については、これからも「文章問題ドリル」に取り組み、指導を重ねていく。「書く力」については、国語科のみならず、他教科でも自分の考えについて根拠とともに書き記す機会を多く持ち、「書く」ことについての抵抗感をなくしていく。算数科では今年度も「基礎基本の定着」「学びに向かう力も向上」に取り組むとともに「子どもの「わかった」「できた」を実感できる授業づくり」を目指している。研究推進については「ティーチング・エンパワーメント事業」からスクールアドバイザーを講師に招き、指導を受けていく。学校全体の取り組みとしては、習熟度別を含む少人数指導の実施、基礎基本の定着を目指した「放課後学習」の実施、児童が主体的に文章問題にチャレンジする「算数アタック」の実施など、個々の児童の課題を解決するような取り組みを日々重ねていく。